

# 高齢者・障害者の利便の増進に資する デジタル・ディバイド解消に向けた 技術等研究開発（補助金）について

総務省情報流通行政局情報活用支援室



# 事業目的・事業内容、実施主体・補助率

## 事業目的・事業内容

【令和6年度予算1億円の内数】

高齢者・障害者の利便の増進に資するため、

●先進的な研究開発であって、その成果によって高齢者・障害者に有益な新しい通信・放送サービスをもたらすもの

●現在行っている通信・放送サービスを高度化し、高齢者・障害者に有益なものとする情報通信機器等

の研究開発を行う者に対し、補助金を交付します。

具体的には??

●身近な機器に機能を追加することで専用の福祉機器の機能を代替するような技術開発  
(スマートフォンのアプリなど)

●障害者の十分な情報取得や意思疎通を実現するICT機器等の高度化に関する研究開発  
(読書環境整備のためのレイアウト解析、AIによる音声・手話認識など)

●重度障害者のデジタルディバイド解消のための研究開発  
(視線等による操作が可能な機器など)

## 実施主体・補助率

※令和7年度スキーム変更の可能性あり

実施主体:民間事業者等

補助率:1/2以内(1研究開発当たり3千万円が上限)

最大3年間補助を実施(採択評価は毎年実施)



# (参考) 助成事例

## (参考) 助成事例

### 駅構内を想定した 視覚障害者の歩行誘導サービスの研究開発



## AIを活用した音声等認識サービスの開発



## スポーツ参加のための 重度障害者用視線伝達装置



# 公募スケジュール(令和6年度の例)

## 公募スケジュール(令和6年度の例)

※令和7年度変更可能性あり

2月1日 公募開始

3月28日17時 公募締切(必着)

5月21日 評価会開催

(応募者によるプレゼンテーション・ヒアリング審査を実施)

6月上旬 採択事業決定

6月10日 交付決定(研究開発開始)

(参考)

11月頃 中間実地検査

3月31日 事業完了届の提出(研究開発終了)

3月末 実績報告書の提出(額の確定)

5月末 成果報告書の提出

6月～7月 終了評価

事業終了年度から5年間 企業化報告(追跡調査)



# 採択の方法、(参考)採択における評価項目

## 採択の方法

- ・ 提出された申請案件について、外部有識者から構成される評価会（プレゼンテーション・ヒアリング審査）による評価を実施。
- ・ 評価結果を参考に総務省が採択案件を決定
- ・ 採択／不採択の決定は、申請者に対して審査結果概要を添えて通知

## (参考)採択における評価項目

### 技術要件（各5点）

- ①補助目的との整合性
- ②達成目標及び手段（実施計画、体制等）の妥当性
- ③研究成果の波及性

### 財務要件（各2点）

- ④財務健全性
- ⑤資金調達力
- ⑥計画額の妥当性



## (参考)これまでの採択実績(直近6年)

### (参考)これまでの採択実績(直近6年)

|      | R1       | R2       | R3       | R4       | R5       | R6       |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 予算額  | 45,472千円 | 48,390千円 | 47,910千円 | 47,880千円 | 45,555千円 | 49,370千円 |
| 助成額  | 16,021千円 | 36,300千円 | 30,533千円 | 35,162千円 | 45,317千円 | 49,037千円 |
| 応募数  | 3件       | 4件       | 10件      | 4件       | 5件       | 7件       |
| 助成件数 | 2件       | 4件       | 4件       | 3件       | 5件       | 5件       |



# 採択事業一覧(令和5年度、令和6年度)

| 令和5年度採択事業 |             | 障害種別         | 対象事業名                                                                                         |
|-----------|-------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1         | ソフトバンク株式会社  | 聴覚障害         | SureTalkの高度化によるきこえない人へのアクセシビリティ向上のための研究開発                                                     |
| 2         | 株式会社ユニコーン   | 肢体不自由        | miyasuku Sports事業化のための研究開発                                                                    |
| 3         | 株式会社想隆社     | 視覚障害<br>学習障害 | 視覚障害者・ディスレクシアのための音声を使った読書方法の研究開発                                                              |
| 4         | 株式会社データ・テック | 高齢者等         | 省電力広域通信(LPWA)を用いた、車両挙動検知システム及びご家族のスマホに危険運転・事故発生をお知らせし、高齢者がいつでも移動能力を維持可能とする運転支援システムの検証と実効性確認研究 |
| 5         | イースト株式会社    | 視覚障害         | 機械学習を活用した非アクセシブルなPDF文書の構造化とテキスト抽出に関する研究開発                                                     |

| 令和6年度採択事業 |             | 障害種別  | 対象事業名                                                                                         |
|-----------|-------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1         | ソフトバンク株式会社  | 聴覚障害  | SureTalkの高度化によるきこえない人へのアクセシビリティ向上のための研究開発                                                     |
| 2         | 株式会社ユニコーン   | 肢体不自由 | miyasuku Sports事業化のための研究開発                                                                    |
| 3         | 株式会社データ・テック | 高齢者等  | 省電力広域通信(LPWA)を用いた、車両挙動検知システム及びご家族のスマホに危険運転・事故発生をお知らせし、高齢者がいつでも移動能力を維持可能とする運転支援システムの検証と実効性確認研究 |
| 4         | 株式会社アイシン    | 聴覚障害  | 公共交通機関における窓口や遠隔での会話、アナウンスに関する施設係員の負担が増えない聴覚障害者に対する情報保障方法の研究開発                                 |
| 5         | 株式会社フォーバル   | 高齢者   | 高齢者リモート支援システム「きづなパートナー」のプラットフォーム研究開発                                                          |



# 研究開発補助における企業化率

## 研究開発補助における企業化率（平成24年～令和3年）

- ・ 研究開発を補助した件数 19件
- ・ 採択企業の企業化件数 9件(約50%)

※企業化率は、補助事業終了後3年以上経過した案件のうち、「商品化済み」の案件で追跡評価の結果がB評価以上の割合。

※追跡評価は、事業終了後一定の期間を経過してから、研究開発成果の展開状況等を評価するため、企業化の取組の妥当性、経済的・社会的有効性、研究成果の波及性の3つの観点から、外部有識者から構成される評価会が評価を行うもの。

評価基準は以下のとおり。

<評価基準（評価点合計は15点満点）>

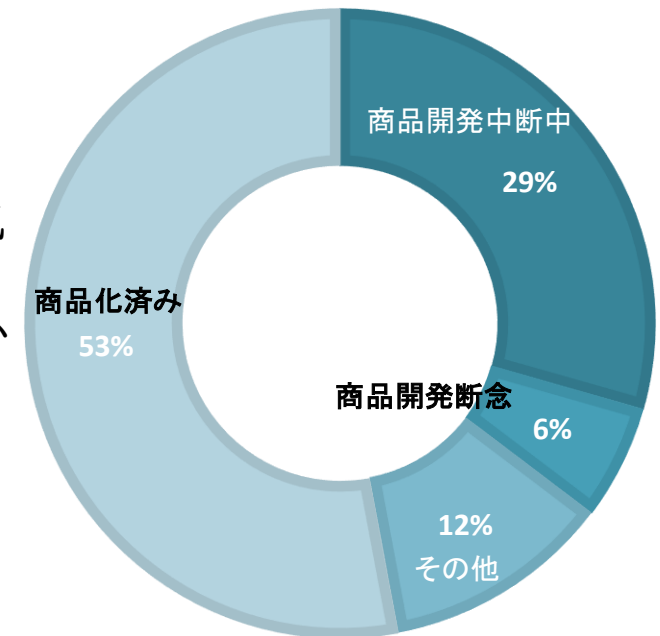
S 評価点12点以上。評価レベル：目標を大幅に上回って達成。

A 9点以上～12点未満。評価レベル：目標を充分達成。

B 6点以上～9点未満。評価レベル：目標をある程度達成したが、課題を残して終了。

C 6点未満。評価レベル：目標を下回り達成できず、多くの課題を残して終了。

### 企業化の状況



# 当事者参加型研究開発促進のため のデータベースのご紹介



# 当事者参加型研究開発促進のためのデータベースのご紹介

情報アクセシビリティに配慮したICT機器・サービスの開発促進を目的に、開発計画段階から障害当事者のニーズや日常生活における困りごとなどを反映することができる「**当事者参加型開発**」に資するため、情報アクセシビリティに係るニーズ情報や配慮の事例、シーズ情報、及び専門家情報（人材データベース）を掲載しています。

情報アクセシビリティ支援ナビ総務省

背景色変更 白 黒 青 黄

お問い合わせ

概要

利用方法

ニーズデータベース  
配慮事例集

シーズ  
データベース

人材  
データベース

情報アクセシビリティ支援ナビ

Act-naviは、総務省が令和2年度に構築し、令和3年9月から国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が運用している障害関連情報データベースです。

情報アクセシビリティに配慮したICT機器・サービスの開発促進を目的に、開発計画段階から障害当事者のニーズや日常生活における困りごとなどを反映することができる「当事者参加型開発」に資するため、情報アクセシビリティに係るニーズ情報や配慮の事例、シーズ情報、及び専門家情報を掲載しています。

概要を見る >

利用方法を見る >



# 情報アクセシビリティ好事例 のご紹介



# 情報アクセシビリティ好事例のご紹介

好事例2024は  
令和6年11月8日(金)まで募集中  
結果公表は令和7年3月頃を予定

- ①国民全般への広くアクセシビリティに配慮した製品の認知度向上
  - ②情報アクセシビリティに特に配慮している企業等やその取り組みの奨励
- を主な目的として、情報アクセシビリティ好事例を実施。令和5年度は24製品を公表。

**指伝話メモリ (オフィス結アジア(神奈川県))【重度障害】**

「カードを1枚選ぶ」というシンプルな操作で、流暢な合成音声で話をする、音楽をかける・止める、メッセージやメールを送る、家電を操作するといったことができる仕組みを整えることができるiPadで使うコミュニケーション支援アプリケーション。



**Uni-Voice Blindの利用方法**

①印刷物の右下に付いている半円の切り欠きを触って位置を確認し、2スキャンが完了すると、画面に文字情報が表示され、同時に音声で内容を読み上げます。

**音声コードUni-Voiceについて**

- ◆コード内に約 800 文字記録可能
- ◆Uni-Voice Blindで読み取ると、コードに含まれた文字情報を表示し、音声で読み上げ
- ◆コードそのものに文字情報が記録可能なため、オフライン環境でも利用可能
- ◆印刷物に音声コードを付けることで、視覚に障害ある人でも「自分で情報を得る」ことが可能に

実際のアプリでの画面表示

アプリの利用は無料です。ぜひお試しください。

**Uni-Voice Blind (Uni-Voice事業企画(東京都))【視覚障害】**

視覚障害者向け音声コード読み取り用スマートフォンアプリケーション

**SureTalk (ソフトバンク(東京都))【聴覚障害】**

手話ユーザーと音声ユーザーのコミュニケーションをより円滑にするサービス



総務省情報流通行政局  
情報流通振興課情報活用支援室

電話：03－5253－5111（代表）  
内線5685

メール：[digital\\_divide\\_atmark\\_soumu.go.jp](mailto:digital_divide_atmark_soumu.go.jp)

※スパムメール対策のため、「@」を「\_atmark\_」と表示しております。  
送信の際には、「@」に変更してください。

